

サロベツ原野だより

Vol.15
-No.2

【HP】 <http://www.sarobetsu.or.jp> 【E-mail】 info@sarobetsu.or.jp

〒098-4100
北海道天塩郡豊富町字豊
西6条6丁目
【TEL】 0162-82-3950
【FAX】 0162-82-3950



目次

1. 表紙・もくじ …P.1
2. 事務局からのお知らせ
 - ① 第18回定期総会の開催・役員の変更 …P.2
について
 - ② 新しい展示のお知らせ …P.3
3. 活動内容
 - ① ペンケ沼 …P.3-4
-危機にあるサロベツを代表する沼-
長谷部 真
 - ② サロベツ湿原の木道維持管理について …P.5
吉原 努
4. コラム
 - ① サロベツ今昔物語 …P.6
野口 多美治
 - ② とよとみの民話 …P.6
豊富高校 郷土研究部編
 - ③ 旬のサロベツ湿原 …P.7
早野 佳織
5. 裏表紙・編集後記 …P.8

お知らせ

シマアオジ・チュウヒのことをより学べる
ポスターの展示をはじめました。



国内では唯一草原で繁殖するタカの仲間の鳥である「チュウヒ」と、サロベツでしか見られなくなった「シマアオジ」、この希少な鳥たちのことを解説したポスター展示を始めました。オスとメスの見分け方や、これらの鳥がおかれている現状などを写真と共にご紹介しております。ご来館の際はぜひご覧下さい。

2. 事務局からのお知らせ

① 第 18 回定期総会の開催と、 役員の変更・新役員のご挨拶について

正会員の皆様にはご案内をしておりますが、2021年5月31日（月）に、豊富町定住支援センター（ふらっときた）にて、第18回定期総会を開催いたしました。



当日は、正会員 68 名中 45 名（本人 13 名、委任状 32 名）の出席があり、議事に沿って進行されました。新役員体制については事務局案が提案され、その後開催された理事会の互選により、下記の通り体制が決まりましたのでご報告いたします。

新役員体制	
代表理事	千葉 久
副代表理事	田中 美恵子
副代表理事	千葉 幸悦
理事	西島 今朝悟
理事	川原 清己
理事	須賀 勝憲
理事	泉 美幸
監事	金子 敬博
監事	阿部 守
顧問	工藤 栄光
相談役	吉村 穰滋

吉村前代表理事よりご挨拶

拝啓 向夏の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて私こと、5月31日開催の定期総会で、代表理事を退任し、相談役に就任することになりました。代表理事在任中は公私にわたりご指導とご支援を賜り心からお礼申し上げます。

今後は、相談役として、微力ながらNPO法人の発展のために、努力する所存でございますので、ご指導とご支援をくださいますようお願い申し上げます。

まずは略儀ながら、書中をもってご挨拶を申し上げます。

前代表理事（現相談役） 吉村 穰 滋

< 千葉新代表理事よりご挨拶 >

清々しい初夏の候 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて私こと このたび、5月31日開催の認定NPO法人サロベツ・エコ・ネットワークの第18回定期総会で代表理事に選任され、就任することになりました。

つきましては、微力ながらNPO法人の発展のために、努める所存でございますので、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

本来ならお伺いし、ご挨拶申し上げるべきところでございますが、現状のコロナ禍ではお伺いすることができませんので、略儀ながら、書中にて就任のご挨拶を申し上げます。

代表理事 千葉 久

② サロベツ湿原センターの 新しい展示のお知らせ

環境省稚内自然保護官事務所により、サロベツ湿原センター内に「VR（バーチャルリアリティ）映像体験展示」と「デジタルサイネージ（電子案内看板）」が設置されました。

1. '鳥目線'で自然体験！「VR 映像体験展示」

サロベツ湿原・礼文島・利尻島などのいくつかのコースがあり、モニター式ではハンドル操作で、ゴーグル式では目線や頭の角度で、鳥になった気分で 360°すべての方向の風景を楽しむことができます。



2. 利尻礼文サロベツ国立公園のことがよくわかる！「デジタルサイネージ」

サロベツ湿原を歩く時のご案内だけでなく、利尻島や礼文島のアクティビティや地図など、知っていれば国立公園をより楽しめる情報が盛りだくさんのデジタルサイネージです。



※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、湿原センターの開館および展示の閲覧・利用に制限を行うことがございます。詳しい利用状況等についてはお電話などでお問合せ下さい。

3. 活動内容

① ペンケ沼

-危機にあるサロベツを代表する沼-

……生物環境保全部 長谷部真

ペンケ沼は利尻礼文サロベツ国立公園及びラムサール条約湿地の中核にあり、サロベツを代表する沼です（図1）。この沼へは道がなく、行くことができませんが、ヒシクイやマガンを中心としたガンカモ類の渡りの中継地（特にヒシクイ）として国内有数で、近年ではタンチョウも確認されています（図2、図3）。



図1 ペンケ沼

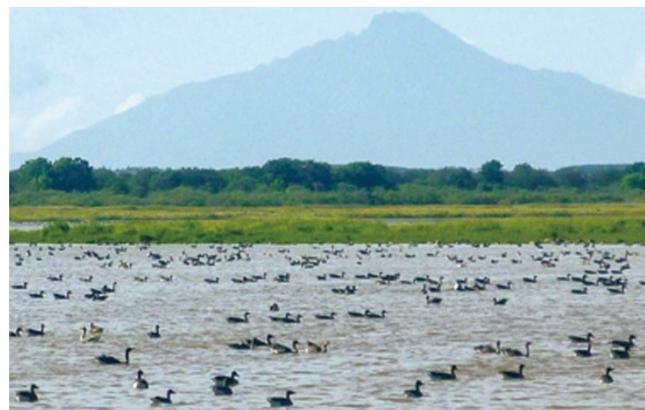


図2 ヒシクイの国内有数の渡りの中継地であるペンケ沼（秋）



図3 ペンケ沼のタンチョウ親子

ペンケ沼はサロベツが7000年前に海だった頃から残された海跡湖です。現在南北2つに分かれています。元々は1つの沼で現在一番大きいペンケ沼と同じくらいの面積がありました(図4)。しかし、戦前に上流で下エベコロベツ川や福永川の排水路として接続された結果、土砂が堆積し、沼が2つに分断され現在の姿になってしまいました。その面積は当初の半分になったと言われています。現在も土砂流入による堆積は継続されており、このままだとペンケ沼が完全に埋まってしまう可能性があります。

空中写真でみるペンケ沼の変遷

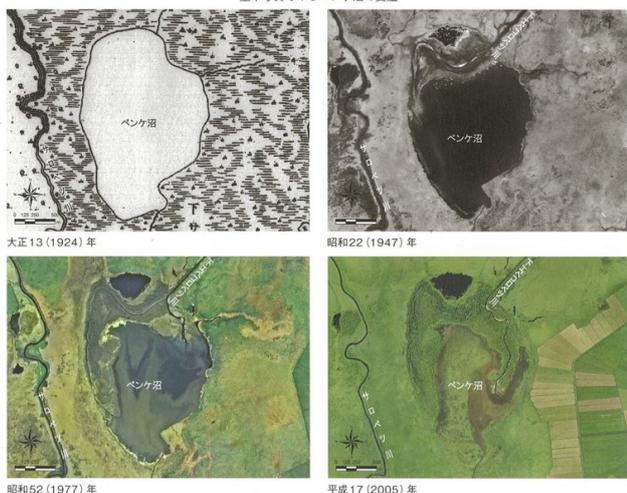


図4 河川から土砂の流入により縮小したペンケ沼 図と写真で見るサロベツ湿原(環境省)

ペンケ沼への流入河川からは土砂だけでなく、不法投棄されたゴミも一緒に流れてペンケ沼に堆積しています(図5)。私たちは環境省の事業で沼の清掃を行ってきましたが、ゴミの流入には歯止めがかかっていません。



図5 ペンケ沼に堆積するゴミとカヌーを利用した清掃活動

ペンケ沼はガンカモ類やタンチョウ、シギ・チドリ類にとって貴重な渡りの中継地ですが、流入する土砂やゴミにより危機的状況にあります。私たちはPCPD(香港の開発投資会社)やバードライフインターナショナルの支援を受けてペンケ沼のガンカモ類とシギ・チドリ類、土砂の流入状況など、調査やゴミ清掃、ゴミの不法投棄に関する調査を始めました(図6、図7)。また、渡り鳥中継地のネットワークである東アジア太平洋フライウェイパートナーシップへのペンケ沼の登録を目指しています。

危機的な状況にあるペンケ沼の再生に向けた活動を続けていきますので、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。



図6 ペンケ沼におけるドローンを用いたヒシクイの個体数調査



図7 ペンケ沼におけるゴミ清掃活動

② サロベツ湿原の 木道維持管理について ……地域環境教育部 吉原 努

皆さん、サロベツ湿原にはいったいどれくらい木道があると思いますか？代表的なのは円山園地（サロベツ湿原センター）、下サロベツ原野園地（幌延ビジターセンター）、パンケ沼園地に隣接する木道で、これらは一般公開されている木道です。実はその他に研究者及び関係者しか入ることのできない、サロベツ原生花園跡地（旧ビジターセンター）、落合木道、泥炭採掘跡地といった調査用木道が3つあります。したがって、サロベツ湿原に設置されている木道は全部で6カ所ということになります。（図1）。

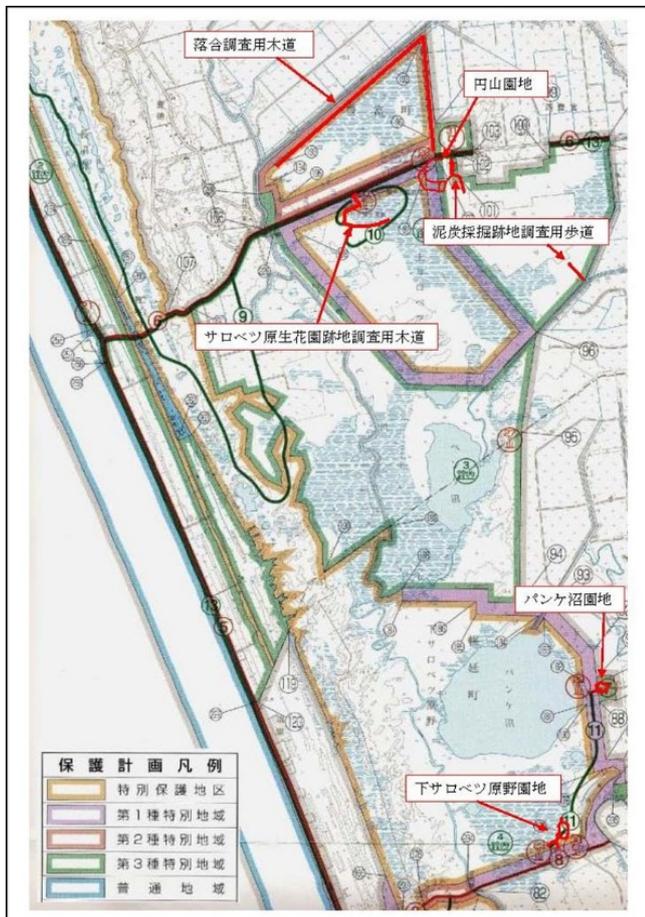


図1. サロベツ湿原木道位置図

当法人では、これらサロベツ湿原に設置されている全ての木道の維持管理作業を行っています。今回はベストシーズンが始まる前に、日々の木道維持管理作業について簡単にご紹介したいと思います。

さて、具体的にどんな作業をしているのかというと、まずは5月～11月にかけて歩道の巡視を毎月行い、木道の点検と腐朽箇所が見つかった場合はコンパネの打ち付けや土台となる角材の交換作業をしています。



また、花を切らないよう気を付けながら木道脇に繁茂する草を除草する作業を実施しています。



いずれの作業も私一人では到底できない労力が必要ですので、地域の方にご協力いただき、サロベツ湿原の木道を守る最高のチームとなっています。



私がかたく大柄な体形のため、壊れそうな古い木道の上を歩くと、バキっとどめを刺し、「お前は前を歩くな！」と言われることもしばしばありますが、多くの方々が安全に利用できるよう作業を進めていますので、木道でお見掛けの際はぜひお声がけください。

4. コラム

① サロベツ今昔物語 ～自分の中の昭和史(28)～ ……豊富町・豊富町郷土研究会 野口 多美治

昭和38年4月、北海道天塩郡豊富町立修徳中学校に任命され修徳校に赴任する。私の生まれは暗中同じ町内の兜沼だが修徳についてよく知らず、ただ沿線から外れた山中にあると言う事だけは知っていた。

当時4月上旬は未だ雪の中、吹雪も多く気候的には厳しい状況にあり交通事情もわからず不安だった。まず宗谷線徳満駅に降りた。聞かされていた通り郵便局の^{ていそうばそり}遞送馬籠が待っており、それに乗って徳満峠の山越えをして3km先の目梨別郵便局に到着する。その日は吹雪のため局長宅に一泊させていただき、翌朝徒歩で4km先の修徳校に到着、古びた住宅に案内される。

昭和38年、この地は未だ電気はついておらずランプ生活になることを知った。夜になると台所の隅の穴からネズミやイタチが出没し食べ物がさらわれる。特にイタチ君には大切な肉の塊を何度もかすめ取られたものだ。風呂は住宅の前にある農家で五右衛門風呂をいただく。あれやこれやで不便な事や新しい経験を吸収しながら過ごす。昭和39年、バイクを購入し生活にも変化が現れる。同年10月にはオリンピック東京大会が開催され校長宅のテレビで楽しむ。修徳中学校での生活は6年間、部落も含め暖かさや子供たちの純真な対応で楽しく過ごす事が出来、また多くの物を学ぶ事が出来た。

修徳中学校は当時の様々な教育行政の中で昭和44年4月から豊富中校に統合される事になった。子ども達は寮生活を余儀なくされる。私も同時に豊富中学校に配置換えをされる。豊中での生活は課題も多く、教育行政対教職員組合の対立も激化した頃で、また様々な問題を抱えた教員も多数存在していた。 ～次号へ～

② とよとみの民話 北海道豊富高等学校 郷土研究部 第四話 養と熊

音吉さんは、熊撃ちの名人として有名で、今までにたくさんの熊撃ちにまつわる話が伝わっていますが、その中でも特におもしろいお話をここに紹介いたします。

熊は、普通春に冬眠から目覚めます。そして、この時期、名人達は熊の寝ている穴を見つけて、中から追い出し出てきたところを撃つのです。音吉さんも、この方法をよく用いましたが、兜沼に住んでいた三郎さんは、音吉さん夫婦がおもしろい方法で、熊を撃ったのを目撃しました。

ある春の日の朝、三郎さんは音吉さん夫婦と一緒に、熊を撃つため、かんじきをはき、蓑を着て、森の奥深く入って行きました。しばらく歩いていくと音吉さんは、熊の穴を見つけました。「おおい、あったぞー！」すると、おかみさん(アイヌ名、エソリマツチ)は、「さて、やるかーあ。」と、後ろ向きになって熊の穴に入っていったのです。「何をやる気だ！おかみさんが、あぶないじゃないか。」と三郎さんは心配してそう言うと、音吉さんは、「まあ黙って見ていなさい。」とニコニコと、微笑みながら答えました。(つづく)



③ 旬のサロベツ湿原

……NPO 職員 早野佳織

サロベツ湿原センターは、緊急事態宣言となった5月16日～31日には全面臨時休館となり、その後宣言延長となった6月1日からは一部(駐車場・木道・トイレ・レストハウス)が開館となりました。今回は臨時休館中の、静かな木道の様子について記したいと思います。

6月2日早朝、サロベツでは氷点下となり、遅霜が降りました。それにより、たくさん咲いていたショウジョウバカマやミツバオウレンが影響を受け、かなり萎れてしまいました。ただ、最高気温がずっと低めに推移していた今年、エゾカンゾウなどの生育は抑えられていたため、結果的に大部分がかろうじて被害を免れました。

6月3日午後、浚渫船の周りの地面に、ツメナガセキレイの雄3羽とハクセキレイの雄1羽が近くに集まっていました。セキレイ会議でも行われていたのでしょうか？(オスのツメナガセキレイは、1羽飛んで行ってしまいました。)



その後、内周の林の奥に、エゾシカがいるのに気づきました。よく見ると雌ジカが一頭、こちらをじっと見ているが全く逃げようとしません。一緒に職員と共にシカとしばらく見つめ合う時間があり、もしかすると出産しようとしているのかもしれないと、我々はそっとおいとましました。

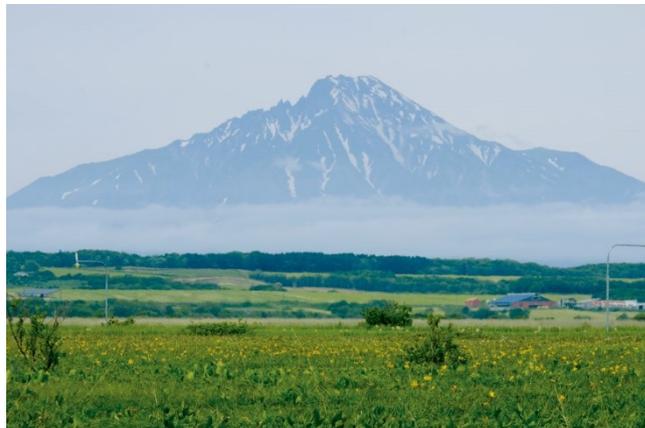


6月14日朝7時10分頃、バーダーさんが木道近くをヒグマが横切るのを目撃。その後センターに連絡がありました。

6月17日昼下がり、遠くでエゾハルゼミのたくさんの鳴き声。ヒグラシに似たその鳴き声は、まるで夏休みの終わりの夕暮れにタイムスリップしたかのような懐かしく不思議な気持ちになります。(しかし、まだ夏は始まっておりません。)

6月26日現在、エゾカンゾウはピークとなり、ため息のでる美しさです。カキツバタなど初夏のお花と共に咲いていて、木道は華やいだ季節となりました。

静かでひっそりとした木道の様子を記そうと思いましたが、書き終わってみたら、翻弄されながらも精一杯を生きる生物たちの躍動と、生命の輝きの瞬間の連続でした。逡巡のない自然は、太古から続く厳しくも美しい世界。そして、当たり前は当たり前ではない、という、当たり前のことをあらためて感じた、臨時休館中の木道の様子でした。季節はさらに移り、サロベツは短い夏を迎えます。



5. 編集後記

本日は6月19日、午後5時になったところですが、現在の気温はなんと9℃。本州からやって来て3か月の身には、この時期のこの寒さには驚かされます。しかし、どうやらエゾカンゾウにとっても堪える寒さのようで、気温の低い日の多かった今年はエゾカンゾウのお花の勢いが例年ほどではないようです。それでも初夏の日差しの中で、つぼみがようやく伸びてきました。

現在はエゾカンゾウを始めとし、カキツバタやコバイケイソウ、ミツガシワ、小さなお花ではコツマトリソウやオオヤマフスマ、ツルコケモモなど多彩な花々が咲き、湿原に彩りを添えてくれています。お花の他にもワタスゲやサギスゲのフワフワとした綿毛が風に揺れ、利尻富士を背景にした美しい風景をお楽しみいただけます。

木道をご利用いただけますが、残念ながら湿原センターは7月11日まで閉館が延長されました。新しい展示も導入され、美しい季節に非常に残念ではありますが、また開館し、皆様をお迎えできる日を楽しみにしております。

(NPO 職員 高橋梨沙)



NPO 法人

サロベツ・エコ・ネットワークとは？

当法人は、サロベツ及び周辺の自然と地域を愛する人々が集い、自然環境の保全活動、調査研究活動及び環境教育活動を通して、自然と人間との共存の大切さを広く啓蒙し、併せて地域の発展、まちの活性化に寄与し、サロベツ及び周辺の豊かで美しい自然を次世代に引き継ぐことを目的として平成16年5月に設立されました。

活動の目的にご理解いただき、共に汗を流し、ご協力下さる会員を随時募集しております。あなたの参加が活動を支えます。どうぞご加入ください。

会員になっていただける方は事務局までご一報下さい。申込方法と会費の振込先をご連絡いたします。また、会の運営を支えるご寄附も随時受け付けております。

3千円以上のご寄附は各種税控除の対象となります。詳しくは、表紙に掲載している事務局の連絡先までお問い合わせください。



<現在の会員数(2021年6月27日時点)>

正会員：68名 / 賛助会員：26団体・13個人
サポート会員：113名【合計】220名・団体

※転居等により住所などのご連絡先に変更が生じた場合は、お早めに事務局までご連絡下さい。事務局の連絡先は表紙の上部にごございます。